［ 診療補助部 ］

救急救命科

救急救命科責任者　係長　田口　雄一郎

1 業務体制

2025年４月時点：係長１名、スタッフ５名　計６名

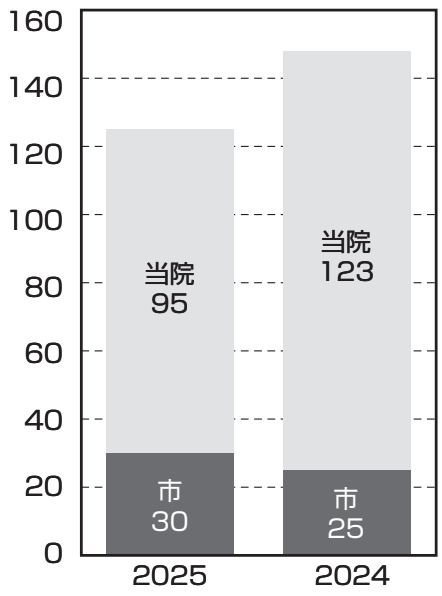
●人員構成（2025年４月１日～2026年３月31日）

職員数		2025年度(対前年度)		
2024	2025	増員	減員	差引
6	6	0	0	0

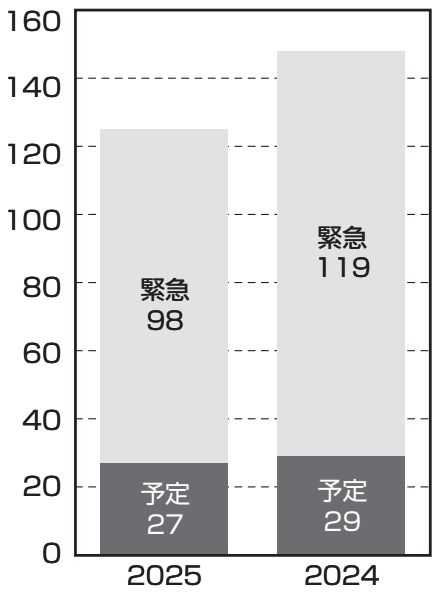
2 業務内容

・病院救急車を用いた搬送業務
・外来および入院患者、病院間転院搬送、お迎え救急搬送、後方連携搬送
・転院搬送時の手配と調整
・ホットラインの応需
・救急外来における診療の補助
・院内急変時対応
・応急手当講習会の開催（職員、地域住民）
・区内イベント救護への派遣
・日本救急医学会認定コース開催(BLS、ICLS)
・救急救命士養成学校　実習受け入れと指導
・災害医療チーム活動　神奈川県DMAT-L、全日本病院支援医療班(AMAT)
・院内防災活動

●搬送件数

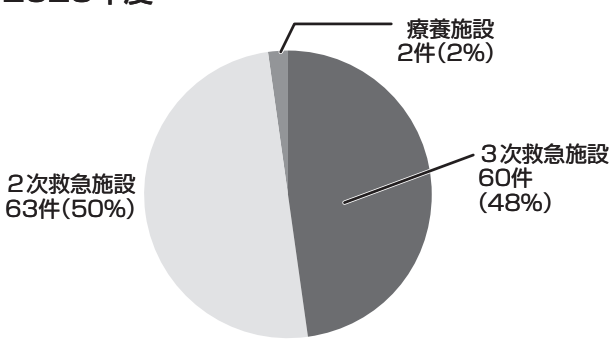


●予定搬送／緊急搬送

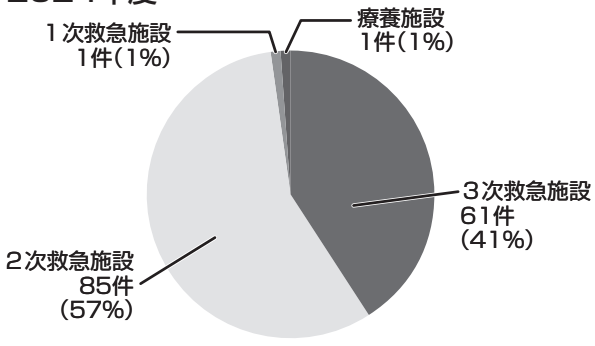


●搬送先病院区分

2025年度



2024年度



●**種類別搬送件数**

	お迎え救急搬送数	後方連携搬送(下り搬送)数
2025	23件	22件
2024	34件	17件

※後方連携搬送(下り搬送)の2024年度の数値は2024年11月～2025年４月までの集計分のみ

3 業務状況

【搬送業務】(2025年４月１日～2026年３月31日)

【ホットライン応需】：看護部・救急搬入状況参照

【院内防災活動・応急手当講習会の開催】

・2025年毎月開催　全職員対象　BLS講習会　指導者として参加
・2025年４月３日　新入職者対象　BLS講習会　指導者として参加
・2025年11月30日　日本救急医学会認定　菊名ICLS講習会　主催と指導者として参加
・2026年１月７日　私立玉川子羊幼稚園　BLS講習会　主催と指導者として参加

【区内イベント救護】

区内開催イベントへ救護派遣

・2025年４月13日　第29回小机城址まつり　救護員として派遣
・2025年７月27日　港北区小学生スポーツフェスティバル　救護員として派遣
・2025年11月８日　ふるさとふれあい祭り　救護員として派遣
・2025年11月９日　港北ペタンク大会　救護員として派遣
・2026年１月18日　港北区駅伝大会　救護員として派遣
・2026年３月１日　港北区グラウンドゴルフ大会　救護員として派遣

【研修・学会・実習生受け入れ】

・2025年７月～８月
　日本体育大学　救急医療学科　学生実習受け入れと指導
・2025年10月11日～12日
　第66回全日本病院学会in北海道　学会発表
・2025年２月14日、２月15日
　神奈川県DMAT-L隊員養成研修　参加修了
・2026年１月21日
　日本救急医学会公認　病院前外傷教育プログラム（JPTEC）１名参加
・2026年３月８日
　公益社団法人　全日本病院協会　AMAT隊員養成研修　２名参加

4 特に力を入れたこと

救急車受け入れ台数等は昨年度と比較して大きく増加し、病院目標を達成、また新型コロナウイルス感染症流行前の水準に戻った。「救急患者連携搬送料」が新設され「下り搬送」が評価されてからというもの、YMGのグループ病院をはじめとした近隣医療機関と連携関係を構築して、後方連携搬送(下り搬送)を継続して実施した。実績を積むと共に連携関係向上への取り組みなど業務のアップデートを行いより効率の良い運用へと繋げている。2026年3月から横浜市情報共有システムの運用が開始され救急診療体制の転換が求められた中で、救急部門の中心的役割として救急体制作りを指揮した。

5 今後の課題

病院における救急救命士に対する需要が高まる中で、いまだに人員は不足している状況である。新年度を迎え、在籍メンバーは少しずつではあるが着実に増えてきている為、早期の業務自立を目指し需要に応えて結果を出す事が継続した課題であると考える。2026年の診療報酬改定では救急搬送件数などの実績要件の厳格化や救急救命士の専門性が活きる下り搬送の促進が柱となっている。当院は救急救命士が既に下り搬送や後方連携搬送、お迎え救急搬送などの多岐にわたる搬送業務を開始しており、他院に比べて強みであるため、今後は如何に病院経営や地域の需要に応じた業務のアップデートができるかが重要と考える。引き続き救急救命士の専門性を活かした業務の実践を行って、地域医療へ貢献していきたい。